

イ 指導計画例 ① 第4学年 体育科学学習指導案

〇〇年〇〇月〇〇日 (〇) 〇校時
〇〇市立〇〇小学校 体育館
4年〇組 〇〇名
指導者 〇〇 〇〇

1 領域 器械運動 (跳び箱運動)

2 題材名 「みんながみんな金メダル! ~自分史上最高の技を披露するぞ~」

3 単元の目標

- ・跳び箱運動の行い方を理解するとともに、繰り返し系や回転系の基本的な技ができるようにする。 (知識及び技能)
- ・自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・跳び箱運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

3 単元の目標

- ・学習指導要領の目標及び内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- ・運動領域は(知識及び技能)→(思考力、判断力、表現力等)→(学びに向かう力、人間性等)の順で表記する。
※体づくり運動は(知識及び運動)→(思考力、判断力、表現力等)→(学びに向かう力、人間性等)
- ・児童の実態や学習状況等を踏まえて作成する。
- ・文末は「~できるようにする。」と表記する。

4 指導について

教材観→一般的特性(指導者から見た効果的特性)、児童から見た特性(運動を学ぶ意義、系統性)等を記述し、学習内容のとらえ方を明らかにする。

児童観→児童の日頃の体育に関する様子や、これまでの学習状況、本単元に関わる各観点の習熟状況、課題、事前アンケートの結果等を記述し、児童のレディネスを把握する。

指導観→指導者の領域や単元のとらえ方、予定している学習過程、具体的な指導内容、工夫等を記述する。

4 指導について

「教材観」「児童観」「指導観」の順で記述するが、文章のまとまりとして3つの観点が読み取ることができれば、「教材観」「児童観」「指導観」を項目立てしなくてもよい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 跳び箱運動の行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p>② 台上前転では、助走から両足で踏み切り、腰の位置を高く保って着手し、前方に回転して着地することができる。</p> <p>③ 首はね跳びでは、台上前転を行うように回転し、背中が跳び箱についたら腕と腰を伸ばして体を反らせながらはね起きることができる。</p>	<p>① 自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決のための活動を選んでいる。</p> <p>② 課題の解決のために考えたことを友達に伝えている。</p>	<p>① 跳び箱運動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>② きまりを守り、誰とでも仲よく励まし合おうとしている。</p> <p>③ 器械・器具の準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。</p> <p>④ 友達の考えを認めようとしている。</p> <p>⑤ 場の危険物を取り除いたり、器械・器具の安全を確かめたりするとともに、試技の開始前の安全を確かめている。</p>

5 単元の評価規準について

- ・学習指導要領解説及び「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）の「学習評価に関する事例について」や「内容のまとめりごとの評価規準（例）」等を参考にする。
 - ・評価規準の語尾は、「～できる」（技能）、「～している」（知識、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」）、「～しようとしている」（主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」以外）と表記する。
 - ・「知識・技能」については、知識の評価規準と技能の評価規準に分けて設定する。
 - ・「思考・判断・表現」については、「思考・判断」の評価規準と「表現」の評価規準に分けて設定する。
 - ・「主体的に学習に取り組む態度」については、愛好的態度、公正・協力、責任・参画、共生、健康・安全の各項目に分けて設定する。
- また、上記表は例示として項目の全てを表記しているが、領域ごと、学期毎、年間を通して各項目をバランスよく評価することができるように工夫して設定する。

例：ゴール型：愛好的態度、公正・協力、共生
 ネット型：公正・協力、責任・参画、共生、健康・安全
 ベースボール型：愛好的態度、責任・参画、健康・安全

《学習評価の基本的な考え方》

- (1) 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- (2) 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- (3) これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直ししていくこと

6 2年間（第3・4学年）を見据えた学習計画

3年		
マット運動（6時間）	鉄棒運動（6時間）	跳び箱運動（7時間）
《回転系》 ・前転 ・易しい場での開脚前転 ・後転・開脚後転 ・側方倒立回転 《巧技系》 ・壁倒立	《支持系》 ・前回り下り ・かかえ込み前回り ・転向前下り ・膝掛け降り上がり ・補助逆上がり ・両膝掛け倒立下り	《切り返し系》 ・開脚跳び 《回転系》 ・台上前転

4年		
マット運動（7時間）	鉄棒運動（6時間）	跳び箱運動（6時間）
《回転系》 ・前転 ・易しい場での開脚前転 ・後転 ・開脚後転 ・補助倒立ブリッジ ・側方倒立回転 ・首はね起き 《巧技系》 ・壁倒立 ・頭倒立	《支持系》 ・前回り下り ・かかえ込み前回り ・転向前下り ・膝掛け降り上がり ・前方片膝掛け回転 ・補助逆上がり ・かかえ込み後ろ回り ・後方片膝掛け回転 ・両膝掛け倒立下り	《切り返し系》 ・開脚跳び 《回転系》 ・台上前転 ・首はね跳び

6. 2年間を見据えた学習計画について

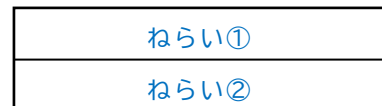
学校の実情に応じて、中学年のどちらか1年間で扱う場合と、2年間で扱う場合の計画例がある。学校体育実技指導資料集等を参考に作成する。

【指導計画の工夫の例】

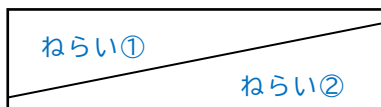
①ねらいをステージで分ける例



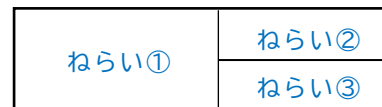
②ねらいを前後半で分け繰り返す例



③時間配分を変化させる例



④前半と後半で構造を変化させる例



7 指導と評価の計画（全8時間）

時間	1	2	3	4	5（本時）	6	7	
	1 集合 整列 あいさつ	1 集合 整列 あいさつ 4 感覚づくりサーキット ・カエルの足打ち ・支持で跳び下り		2 場の準備 ・前転(真っすぐ) ・舞台への跳び乗り		3 準備運動（ねこちゃん体操） ・支持で跳び乗り ・舞台から回転して着地		
	2 オリエンテーション	5 めあての確認						
	3 ション ・学習の進め方を知る ・準備物、約束事、グループの確認	6 台上前転のポイントを知る 7 スキルアップタイム ・ポイントを意識し練習する	6 スキルアップタイム 7 チャレンジタイム 確	6 首はね跳びのポイントを知る 7 スキルアップタイム 確	6 スキルアップタイム 7 チャレンジタイム 確	6 課題別練習 前半：台上前転 後半：首はね跳び	6 練習 前半：台上前転 後半：首はね跳び 7 各グループ内で互いに持ち	
	4 3場の準備 4 準備運動（ねこちゃん体操） 5 試しの運動 6 学習のふり返り 7 整理運動 8 片付け 9 あいさつ	8 片付け ・今分をる						
<p>指導計画のチェックポイント</p> <p>①学習指導要領の趣旨やねらいを踏まえた授業展開となっているか。 ②目標、学習のねらいが明確になっているか。 ③目標に準拠した学習活動及び評価規準になっているか。 ④観点別に学習状況評価を行っているか。 ⑤発達の段階を踏まえた系統的な学習内容となっているか。 ⑥学習状況を的確に評価できる多様な評価方法を用いているか。</p>								
<p>評価の3つの局面</p> <p>1. 診断的評価…児童の関心・意欲・態度、技能や知識等、特に指導すべき点を判断し、授業の計画を立てる。 2. 形成的評価…児童の変容を見取り、新たな課題提示や、指導の修正を行う。 3. 総括的評価…目標に対してどの程度まで達成できたかを見取る。←狭義の学習評価 「指導と評価の一体化」→学習評価を次の指導や支援に積極的に生かし授業改善を行う。</p>								
指導の機会	知	①	②		③			
	思		①	②				
	態		①	②	③			
評価の重点	知		① 観察・学習カード		① 観察・学習カード	② 観察・学習カード	③ 観察・学習カード	
	思			①		②		
	態	⑤ 観察						
<p>各時間の主として評価する観点を表記する。 主として評価する（できる）のは各時間に1～2つ。 ※本単元では、主体的に学習に取り組む態度の各項目のうち、①～⑤（③を除く）を設定したと仮定して表記しています。</p>								

8 本時の展開（5 / 7 時間目）

(1) 本時の目標

- ・ 跳び箱運動の行い方を理解するとともに、回転系の技ができるようにする。
(知識及び技能)
- ・ 課題の解決のために考えたことを友達に伝えることができるようにする。
(思考力、判断力、表現力等)
- ・ きまりを守り、誰とでも仲よく励まし合うことができるようにする。
(学びに向かう力、人間性等)

※本時では、思考・判断・表現を主として評価する。

・ 本時の目標（※「本時のめあて」ではないので注意）の文末は「～できるようにする。」と表記する。

・ 目標は3観点表記するが、それら全てを評価することは困難であるので、本時において主として評価を行う観点を明らかにする。

・ 主として評価を行う「本時の目標」と「単元の評価規準」、さらに本時の展開に表記される「本時のめあて」と「評価項目」の4点の整合が図られていること（同一の内容でリンクできていること）を確認する。（※重点内容の指導と同時間内に評価を行う場合があるが、**技能や主体的に学習に取り組む態度のように、習得や活用の段階等を踏まえ一定期間を置くなど、指導と評価の時期をずらして評価を行う場合も考えられる**）

(2) 展開

主なねらい・学習活動	教師の働きかけ（口評価）	準備物
1 集合挨拶	○準備物、約束事、グループの確認をする。	跳び箱 踏切板
2 場の準備 準備運動 感覚づくり	○協力して安全に準備物を準備するように声をかける。 ○動きのポイントを意識しながら丁寧に行うよう声をかける。	マット セーフティーマット ト
3 本時のめあての確認をする	○前時のふり返りや映像をもとに、技のポイントのふり返りを行うことで、単元のつながりを意識できるようにする。 ○課題のある見本画像と本画像を見比べさせ、モデリングをおこなう。 ○前時に撮影した各局面の画像と、見本画像を比較し、課題を確認させる。	コーン モニター PC
自分の課題を解決できる場を選んで首はね跳びの練習をしよう		
4 主運動 スキルアップ タイム	○各自の課題をグループ内で共有するよう声をかける。 ○解決のための場を選択して練習に取り組むように声をかける。 ○友達のよい動きを見付けるように助言する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 児童の立場で表記する。 文末は「～をする。」 「～考える。」 「～取り組む。」 「～振り返る。」等 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 解決に適した場や練習方法を選択できていない場合は行動を認めつつ修正を行う。 場に応じて、ICT機器や見本動画のように助言する。 </div>
		評価項目を表記する

<p>チャレンジ タイム</p> <p>5 片付け 6 学習の ふり返し</p> <p>7 整理運動 挨拶</p>	<div data-bbox="568 212 1233 286" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>課題の解決のために考えたことを友達に伝えている。 (思考力,判断力,表現力等②)観察・学習カード</p> </div> <p>○友達のよい動きを見付けるように助言する。 ○グループで試技を行わせ、お互いの動きを確認するよ うに声をかける。 ○必要に応じて、ICT機器や見本動画を活用するよ うに助言する。</p> <div data-bbox="576 546 1233 620" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>きまりを守り、誰とも仲よく励まし合おうとしている。 (学びに向かう力,人間性等②)観察・学習カード</p> </div> <p>○協力して安全に片付けをするように声をかける。 ○チーム内で各局面のポイントやコツを伝え合い、掲示 用ワークシートに記入させる。 ○個人のふり返しでは、本時のめあてに対して学習をふ り返るように声をかけ</p> <div data-bbox="743 831 1249 1059" style="border: 2px solid blue; padding: 5px;"> <p>指導者の立場で表記する。 文末は「～確認する。」 「～できるようにする。」 「助言する。」「声をかける。」等 ※「～させる。」ではないので注意</p> </div>	<p>掲示用ワ ークシ ート</p>
---	--	----------------------------

※必要に応じ、学習カードや技のポイント等の掲示物を添付する。また、配慮を要する児童
に対する具体的な手立て等を表記することも考えられる。

体育科年間指導計画(例)

〇〇〇立〇〇小学校

小学校学習指導要領及び小学校学習指導要領解説体育編を基に、各校の実態に即した低学年体育科の目標を設定します。

- 低学年の目標
- (1) 各種の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知らずとも、基本的な動きを身に付けるようにする。【知識及び技能】
 - (2) 各種の運動遊びの行い方を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。【思考力、判断力、表現力等】
 - (3) 各種の運動遊びに進んで取り組み、まきまきを守り誰とも仲間よく運動をし、意欲的に運動をする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

学年	2学期45時間(運動場20時間・体育館25時間)												なわとび																				
	1学期36時間(運動場21時間・体育館15時間)			9月						10月				11月			12月																
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	2	3	4		
運動場	B 器械、器具を使った運動遊び 【跳び箱を使った運動遊び】			E ゲーム 【鬼遊び】			C 走、跳の運動遊び 【走の運動遊び】						F 表現リズム遊び 【リズム遊び】			E ゲーム 【鬼遊び】			E ゲーム 【ボールゲーム】			C 走、跳の運動遊び 【走の運動遊び】			E ゲーム 【ボールゲーム】			E ゲーム 【ボールゲーム】			E ゲーム 【ボールゲーム】		
体育館	A 体づくりの運動遊び 【体ほくしの運動遊び】			C 走、跳の運動遊び 【跳の運動遊び】			F 表現リズム遊び 【リズム遊び】						F 表現リズム遊び 【リズム遊び】			A 体づくりの運動遊び 【多様な動きをつくる運動遊び】			B 器械、器具を使った運動遊び 【マットを使った運動遊び】			A 体づくりの運動遊び 【表現リズム遊び】			B 器械、器具を使った運動遊び 【跳び箱を使った運動遊び】			A 体づくりの運動遊び 【体ほくしの運動遊び】			B 器械、器具を使った運動遊び 【跳び箱を使った運動遊び】		
行事	運動会			水泳指導			運動会						運動会			外遊び・みんなでチャレンジ			かけ足			外遊び・みんなでチャレンジ			かけ足			なわとび					

学年	2学期45時間(運動場20時間・体育館25時間)												なわとび																				
	1学期39時間(運動場21時間・体育館18時間)			9月						10月				11月			12月																
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	2	3	4		
運動場	B 器械、器具を使った運動遊び 【跳び箱を使った運動遊び】			E ゲーム 【鬼遊び】			C 走、跳の運動遊び 【走の運動遊び】						F 表現リズム遊び 【リズム遊び】			E ゲーム 【鬼遊び】			E ゲーム 【ボールゲーム】			C 走、跳の運動遊び 【走の運動遊び】			E ゲーム 【ボールゲーム】			E ゲーム 【ボールゲーム】			E ゲーム 【ボールゲーム】		
体育館	A 体づくりの運動遊び 【体ほくしの運動遊び】			C 走、跳の運動遊び 【跳の運動遊び】			F 表現リズム遊び 【リズム遊び】						F 表現リズム遊び 【リズム遊び】			A 体づくりの運動遊び 【多様な動きをつくる運動遊び】			B 器械、器具を使った運動遊び 【マットを使った運動遊び】			A 体づくりの運動遊び 【表現リズム遊び】			B 器械、器具を使った運動遊び 【跳び箱を使った運動遊び】			A 体づくりの運動遊び 【体ほくしの運動遊び】			B 器械、器具を使った運動遊び 【跳び箱を使った運動遊び】		
行事	運動会			水泳指導			運動会						運動会			外遊び・みんなでチャレンジ			かけ足			外遊び・みんなでチャレンジ			かけ足			なわとび					

領域	内容の取扱い等
A 体づくりの運動遊び	体ほぐしの運動遊び、多様な動きをつくる運動遊びを2学年にわたって指導します。基本的な動きを身に付けるため、連続性のある単独単元として指導します。
B 器械・器具を使った運動遊び	固定施設を使った運動遊び、マットを使った運動遊び、鉄棒を使った運動遊び、跳び箱を使った運動遊びを、2学年で偏りのないよう計画し指導します。感覚つくり運動を予備運動として行いながら、回転、支持、逆さの姿勢、ぶら下がり、振動、手足での移動などの基本的な動きを身に付けるように指導していきます。その基本的な動きを身に付け、中学年の器械運動の学習につなげていくことが求められます。
C 走・跳の運動遊び	30～40m程度のかけっこ、折り返しリレー遊び、低い障害物を用いたのりこみ遊び、幅跳び遊び、ケンパー跳び遊び、ゴム跳び遊びを2学年で偏りのないよう計画し指導します。児童の実態に応じて、投の運動遊びを加えて指導することができます。
D 水遊び	水につかかって歩いたり走ったり、水にもぐったり浮いたりする楽しさにも触れ、その行い方を知らずとも、水慣れを通して不安感を取り除き、水の心地よさを味わうことから始め、水の中を移動すること、もぐる・浮くことなどの基本的な動きを身に付けるようにし、中学年の水泳運動の学習につなげていくことが求められます。
E ゲーム	「ボールゲーム」と「鬼遊び」で構成されます。「ボールゲーム」では、簡単なボール操作と攻めや守りの動きによって易しいゲームをしたり、一定の区域で「鬼遊び」をしたりすることができますようにし、中学年のゲームの学習につなげていくことが求められます。(中学年では、「ゴール型ゲーム」「ネット型ゲーム」「ベースボール型ゲーム」に発展します。)
F 表現リズム遊び	表現あるいはリズムダンスの単独単元として指導します。運動会の表現種目は、表現運動領域の指導内容を踏まえた学習成果発表の場として位置付けます。「イ リズム遊び」については、学校や地域の実態に応じて、簡単なフォークダンスを加えて指導することができます。

評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 (低学年)	<ul style="list-style-type: none"> 運動遊びの行い方について発言したり記録したりしている。 基本的な動きを身に付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動遊びの場や遊び方を工夫している。 友達の良い動きを見付けたり、考えたことを友達に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動遊びに進んで取り組もうとしている。 きまりを守り誰とも仲よく運動しようとしている。 場や用具の安全に気を付けている。
評価方法	行動観察・技能観察・ワークシート等		

学習指導要領(解説)を根拠に設定した目標に対して評価を行います。体育科では3つの観点で評価し、評価の方向性は児童・保護者とも共有します。

学年	内容	時間 (計102時間)
第1学年	体ほぐしの運動遊び、多様な動きをつくる運動遊び	17
	固定施設を使った運動遊び、マットを使った運動遊び、鉄棒を使った運動遊び、跳び箱を使った運動遊び	20
	走の運動遊び、跳の運動遊び、(投の運動遊び)	14
	水の中を移動する運動遊び、もぐる・浮く運動遊び	10
	鬼遊び(7)、ボールゲーム(19)	26
	表現遊び、リズム遊び	15

学年	内容	時間 (計105時間)
第2学年	体ほぐしの運動遊び、多様な動きをつくる運動遊び	18
	固定施設を使った運動遊び、マットを使った運動遊び、鉄棒を使った運動遊び、跳び箱を使った運動遊び	21
	走の運動遊び、跳の運動遊び、(投の運動遊び)	16
	水の中を移動する運動遊び、もぐる・浮く運動遊び	10
	鬼遊び(6)、ボールゲーム(19)	25
	表現遊び、リズム遊び	15

各領域の配当時間を明らかにすることで、指導内容の偏りや未履修を防ぎます。

保護者に向けて、自ら進んでいろいろな運動に親しみチャレンジすることや様々な運動経験の積み重ねが土台になること等の情報を発信することが大切です。また一緒に体を動かし、いろいろな遊びを通してできるようになったことを褒め、いろいろな動きを楽しんでいく意欲をもたせていくことも豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成につながります。

指導計画例②

【参考】国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
 「国立教育政策研究所 教育課程研究センター」
 (<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>)

中学校(1年生)

1 単元名 球技:ゴール型(サッカー)

2 単元の目標

- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性(や成り立ち)、技術の名称や行い方、(その運動に関連して高まる体力)(など)を理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。
 ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。 【知識及び技能】
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) (球技に積極的に取り組むとともに)、(フェアなプレイを守ろうとすること)、(作戦などについての話合いに参加しようとする)、(一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする)、仲間の学習を援助しようとする(など)や、健康・安全に気を配ることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

本例では、単元の目標は学習指導要領「2 内容」を踏まえ、第1学年及び第2学年の目標全てを記載した上で、本単元(サッカー)の目標を明示するため、他の単元で指導し評価する部分については、()で示しています。

その他の示し方として、学習指導要領「2 内容」から必要な部分のみで示す方法や、学習指導要領に示されている3つの資質・能力に基づき身につけさせたい内容を示す方法があります。

3 指導にあたって

(1)運動の特性

(2)生徒について

良い、悪いといった状況ではなく、これまでの学習状況、事前アンケートの結果などを示します。

(3)指導について(指導観)

本単元での目指す実現状況(指導観)や予定している学習過程などを示します。

4 単元の評価規準

ア)知識・技能	イ)思考・判断・表現	ウ)主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、 <u>言ったり書き出したりしている</u> 。 ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身につけるためのポイントがあることについて、 <u>学習した具体例を挙げている</u> 。	○技能 ①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることが <u>できる</u> 。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。	①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ②健康・安全に留意している。

【文末表記】

- ・～言ったり書き出したりしている。
- ・～学習した具体例を挙げている。

【文末表記】

- ・～できる。

【文末表記】

- ・～を伝えている。
- ・～を見つけている。等

【文末表記】

- ・～しようとしている。
- ※健康・安全に関わるものは
・～している。

表の見出しは、「育成を目指す資質・能力の3つの柱」とし、それぞれに対応した評価規準と具体的な指導内容について明記しています。

5 具体的な指導内容と単元の評価規準

知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
知識	技能		
<p>ゴール型球技は、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うことが楽しい運動であること。</p> <p>①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて言ったり書き出したりしている。</p> <p>ボール操作には、シュートやパス、ボールをキープする技術の名称があること。それらを身につけるポイントがあること。</p> <p>②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身につけるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>ゴール方向に守備者がいない位置に移動した時にシュートを打つこと。</p> <p>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。</p> <p>フリーの仲間を見付け、相手の動きに合わせてパスを送り出すこと。</p> <p>②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p> <p>ボール保持者とゴールが見える位置に移動し、ボールを受ける準備態勢をとること。</p> <p>③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</p>	<p>成功例、つまずき例などの事例や、シュート、パス、キープのポイントを提示し、仲間の動きと比較し、伝えること。</p> <p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>活動時間の確保やグループの人間関係がよくなるといった目的を伝え、用具の準備や後片付け、記録や審判などの分担した役割における自身の活動の仕方を見付けること。</p> <p>②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p> <p>仲間の意見をしっかりと聞く、自身の意見を述べるなどの話し合いへのマナーを提示し、参加の仕方を見付けること。</p> <p>③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</p>	<p>仲間の学習を援助することは、自己の能力を高めたり仲間との連帯感を高めて気持ちよく活動したりすることにつながるという目的に適した仲間との関わり方があること。</p> <p>①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>体調の変化などに気を配ること、ボールなどの用具の扱い方や、ゴールの設置状態、練習場所などの自己や仲間の安全に留意すること、技能の難易度や自己の体力や技能の程度に合った運動をすることが大切であること。</p> <p>②健康・安全に留意している。</p>

本例では、実際にどのような指導を行うのかを明示し、指導した内容を評価する際の評価規準を四角囲みの中に明示しています。

【当該単元における具体的な指導内容の明確化を図る】

単元の目標の実現には、具体的な指導を充実した上で、単元の評価規準により評価を行うことが重要です。そのため、学習指導要領の記載等から、生徒の学習状況を実現するための具体的な指導内容を明確にしま

す。

6 指導と評価の計画(全10時間)

単元の目標		知識及び技能										授業づくりのポイント			
		次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や(成り立ち)、技術の名称や行い方、(その運動に関連して高まる体力)(など)を理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。													
		攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。													
		(球技に積極的に取り組むとともに)、(フェアなプレイを守ろうとすること)、(作戦などについての話し合いに参加しようとする)、(一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする)、仲間の学習を援助しようとする(など)や、健康・安全に気を配ることができるようにする。													
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	授業づくりのポイント				
学習の流れ	0	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動										<ul style="list-style-type: none"> ・三つの資質・能力の内容をバランスよく指導する。 ・動きの獲得を通して、知識の大切さを一層実感できるようにする。 ・汎用性のある知識を精選した上で、知識の学習を基盤とした学習の充実を図る。 ・ゴール前の空間の攻防をめぐる学習に課題を追求しやすいようにプレイヤーの人数、コート広さ、用具、プレイ上の制限を工夫したゲームを取り入れる。 ・練習やゲームでは、即時にアドバイスをし合うことができるようにし、学習の振り返りで質を高めていく。 ・仲間への助言や安全に留意する意義などの理解と具体的な取り組み方を結び付けて指導する。 			
	10	オリエンテーション	ボール操作 シュート パス トラップ		空間に走り込むなどの動き ボールとゴール		課題の確認と解決に向けた練習 ○ボール操作 ○空間に走り込む ・課題伝達 ・役割を見付ける		ゲームIの修正	最終リーグ戦II					
	20		ボール慣れゲーム	シュートゲーム ゲームの記録の活用		グリッド突破ゲーム 仲間への即時の助言		簡易ゲームI (人数・コート・ルール等の簡易化)			最終リーグ戦I		単元のまとめ		
	30	整理運動・学習の振り返り・次時の確認													
	40														
50															
評価の機会		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	総括的評価 学習カード 観察、記録 学習カード、観察 観察、学習カード			
	知	①	(②)	(②)		②									
	技			①		②	③								
	思					②	①			③					
態		②		①											
評価規準	知	①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身につけるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。													
	技	①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。													
	思	①提示された動きのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。													
	態	①練習の補助をしたり仲間へ助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ②健康・安全に留意している。													

【指導と評価の計画(10時間)を作成する】

単元の目標、内容、評価規準が具体化され、指導場面や評価機会が関連付けられた指導と評価の計画を作成します。その際、目標の実現に向けて、指導したことを評価すること、「努力を要する」状況と判断される生徒への指導の充実が速やかに図ることができるよう、評価の機会を適切に設定することなどに留意する必要があります。

あります。

7 本時の指導「サッカー」

(1) 本時の目標

- ① 得点しやすい空間に走り込むためのポイントを見付けることができるようにする。
- ② 得点しやすい空間にいる仲間にパスするためのポイントを見付けることができるようにする。

(2) 本時の学習評価

- ・球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身につけるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 (知識・技能)
- ・得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 (知識・技能)

(3) 展開(5時間目/10時間中)

段階	学習内容・学習活動	教師の支援・指導上の留意点	評価規準・評価方法
はじめ (10分)	1 挨拶・出席確認。 2 本時のねらいの確認。 3 準備運動を行う。 4 ウォーミングアップをかねてボール操作の復習をする。(リフティング・ドリブル・パス)	・体調不良やケガをしている生徒がいないかを確認する。 ・本時のねらいを明確にし、生徒自身に課題を見つけさせる。 ・安全面の留意事項を確認する。 ・前時までに学習した内容を思い出しながら取り組ませる。	
なか (35分)	得点しやすい空間へ走り込むためのポイントを見付ける		◎【評価】 (知)② 学習カード
	5 コーンをディフェンスに見立て、空いた空間へ走り込む動きと、走り込んだ味方へのパス練習 ○コーンをディフェンスに見立て、間をついてよりよいスペースに走り込む練習 ○3対2の攻撃側有利の状況で、空いたスペースに走り込む練習	・常に、空いている空間を探すことを意識させる。 ・自分が空いている空間に飛び込めそうなときはパスがもらえるように声を出させる。 ・自分以外の味方が動いた際に、どこへ移動すると良いかを考えさせる。 ・パスをするタイミングと場所を意識させる。	
	得点しやすい空間にいる仲間にパスするためのポイントを見付ける		◎【評価】 (技)② 観察・記録
	6 グリッド突破ゲームを行う ○最初は5対3で行う。 ○慣れてきたら5対4～5対5へと発展する。 7 学習カードへの記入 ○本時で学習した内容を記入する	・攻撃側、防御側ともに気付いたことを話し合えるようにインターバルを設ける。 ・気付いたことは積極的にアドバイスするように指導する ・空いた空間へ走り込むためのポイントを意識させる。 ・本時のねらいに応じた内容について記入させる。 ・自分だけでなく、仲間の良かった点についても記入させる。	
まとめ (5分)	8 整理運動を行う。 9 本時の活動を振り返り、反省点及び次時の課題の確認。 10 挨拶	・体調不良やケガをしている生徒がいないかを確認する。 ・本時のねらいを確認し、個々に振り返らせ、発表させる。	

○学習内容をより効果的に学習させるための方法や発問等

○場の工夫や指導時の配慮事項
○技能のコツや努力を要する生徒に対する手立て等

○学習活動に対応させて記載
○評価方法…観察、ノート等

指導計画例③

ここに、示している様式は一例であり、より重点化したり、より端的に記載したりすることも考えられます。単元の目標に照らして観点別学習状況の評価を行う上で必要な要素が盛り込まれていれば、語順や記載の仕方等は必ずしも本様式どおりである必要はありません。

保健体育科（科目「体育」）学習指導案

令和〇〇年〇〇月〇〇日（〇） 〇校時

〇立〇〇高等学校 体育館

□年□組 □□名

指導者 〇〇 〇〇

※入学年次の学習内容について作成している。

1 単元名 武道（剣道）

2 単元の目標

(1) 次の運動について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開する**ことができるようにする。**

イ 剣道では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防を**できるようにする。**（知識及び技能）

(2) 攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える**ことができるようにする。**（思考力、判断力、表現力等）

(3) 武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること**ができるようにする。**（学びに向かう力、人間性等）

「2 単元の目標」の作成上の注意事項

- ・学習指導要領の目標及び内容、学習指導要領解説等の内容を踏まえて作成する。
- ・（知識及び技能）→（思考力、判断力、表現力等）→（学びに向かう力、人間性等）の順に記載。
※体づくり運動は（知識及び技能）が（知識及び**運動**）となる。
- ・文末は「～できるようにする。」と表記する。

3 指導について

生徒観→ これまでの生徒の学習状況や習熟状況、体力テストの測定結果やアンケート調査の内容等踏まえ、学習を進める上で必要となる生徒の実態を記載する。実態を踏まえた上で、本単元を通して身につけさせたい内容について記す。

教材観→ 単元の一般的な特性と学習する意義・位置付け等を考慮し、育成する資質や能力を明確に示す。

指導観→ 生徒の実態を踏まえ、単元の目標を達成するための具体的な手立てを示す。主体的・対話的で深い学びを実現するための手立てを記す。

「3 指導について」の記入上の注意事項

- ・「生徒観」「教材観」「指導観」の順に記載するが、3つの観点についてその内容が読み取れれば、あえて項目立てする必要はない。

4 単元の評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>① 剣道を学習することは、自国の文化に誇りをもつことや、国際社会で生きていく上で有意義であることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>② 試合の行い方には、簡易な試合におけるルール、審判及び運営の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>③ それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントがあることについて学習した具体例を挙げている。</p>	<p>○技能</p> <p>① 相手と接近した状態にあるとき、隙ができた面を退きながら打つことができる。(引き面)</p> <p>② 相手が打とうとして竹刀の先が上下に動いたとき、隙ができた面を打つことができる。(出ばな面)</p> <p>③ 相手が小手を打つとき、体をかわしたり、竹刀を頭上に振りかぶったりして面を打つことができる。(小手抜き面)</p>	<p>① 自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。</p> <p>② 相手を尊重するなど伝統的な行動をする場面で、よりよい所作について、自己や仲間の活動を振り返っている。</p>	<p>① 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。</p> <p>② 健康・安全を確保している。</p>

「4 単元の評価規準」の作成上の注意事項

- ・単元の評価規準は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説保健体育編」（平成30年7月）文部科学省（https://www.mext.go.jp/content/1407073_07_1_2.pdf）、及び『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校 保健体育（令和3年8月）文部科学省 国立教育政策研究所（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820_hig_hokentaiiku.pdf）を参考にして作成する。
- ・文末の表現は、上記の例のように各観点において**決められた表現を用いる。**

5 指導と評価の計画（別途掲載）

「5 指導と評価の計画」の作成上の注意事項

- ・指導と評価の一体化を図り、カリキュラム・マネジメントのために必ず作成する。
- ・詳細については、別紙資料及び『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校 保健体育（令和3年8月）文部科学省 国立教育政策研究所を参照する。
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820_hig_hokentaiiku.pdf

6 本時の展開 (5/16 時間)

指導と評価の計画及び単元の目標から、より具体的に本時のねらいをおろしてくる。

(1) 本時の目標

○それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントがあることについて学習した具体例を挙げることが**できるようにする**。【知識】

(○相手が打とうとして竹刀の先が上下に動いたとき、隙ができた面を打つことが**できるようにする**。(出ばな面)【技能】)

(2) 準備物 資料

竹刀、学習カード

(3) 展開

時間	学習内容と学習活動	教師の指導・支援 (◆評価規準と方法)
導入 15分	1 挨拶、健康観察 2 準備運動 3 前時の振り返り及び既習技の復習 本時の学習課題について、 生徒に提示する言葉で記入 する。 4 本時の学習内容の確認	○生徒の健康状態について、出欠確認の際直接本時の目標、本時のねらい及び評価規準が一致するようにする。 ただし、 技能や主体的に学習に取り組む態度 のように、習得や活用の段階等を踏まえ、評価をするまで一定期間を置くなど、指導と評価の時期をずらして行う場合も考えられる。その場合は、必ずしも一致するものではないことに留意する。 について理解できるようにする。
<p>【本時のねらい】 相手が打とうとして竹刀の先を上下に動かした際に生まれる隙を捉えて、面を打とう！</p>		
展開 25分	5 技の説明を聞き、動画の視聴を通して理解を深める。 ◎約束練習 (3~4人グループ) 元立ちと掛かり手以外の生徒は、タブレットと用いて練習を記録し、わかりやすくフィードバックする。 ◎自由練習 (3~4人グループ) 待っている生徒は撮影をしたり、見取り稽古をして、その内容をフィードバックし、また自分の練習に生かす。	○ICTを活用し、よりわかりやすく技の説明を行う。 ○活動している生徒と待っている生徒や撮影している生徒が交錯しないように注意する。 個別の対応が必要な生徒への指導の手立てや対応策を示す。 ○巡回しながら、出ばな面がうまく打つことができるように成功例を見せたり、適切な助言を行う。
<p>◆知識③ 出ばな面を身に付けるための技術的なポイントがあることについて学習した具体例を挙げている。【学習カード：記述】</p>		
まとめ 5分	出ばな面を身につけるためのポイントを話し合い、その内容を学習カードに記入する。	○学習が深まるように助言する。 (評価の観点)、【評価方法】を示す。

